



市・史跡

万燈台

魚津市新角川（魚津市）

江戸時代の運輸は、陸上より海上による場合が多く、魚津港（角川河口）にも北海道や、敦賀・大阪まで往来する数多くの船舶が出入りし、越中米・新川木綿・筵などを輸出するとともに魚肥などが送られてきていた。そのため湊付近は船が寄り集まることが多く、シケの際などは危険になってきた。

当時は角川尻が湊として栄えていたので、慶応元（1865）年に町奉行土方与八郎が加賀藩に灯台の設置を願い出て、同4年、第43代町奉行小川渡の時に角川尻に完成したものである。

この灯台を維持するため、油屋12軒へ360貫を貸し渡した利息を油代にあてたことから、この灯台の明りは消えることがなかったという。

戦後、街の開発のため何度か移転し、昭和57年に最初の建設地すぐそばの、現在ある場所に定着した経緯がある。